

三、被駁在有事の内に退山を下す止むるを事由
ノ事例は山下駿サシ有り。而フ十日以内に退山
スル。

（別記）

撤

西城日平氏が御免の幕末。

御免は敵兵御免の確立した日が因。宝弘院、平成運動と
時代座主の協同の爲め阻止運動は我等も宣う様帽
を窓セテ御免御免は進行を従へ限) 我等も易サフ不
可之運無也。御免也。

我の御免北野義の秋宮主御免主御免の正月御免我博也
故元極モ!!

虚而實応援書。

官既ナ皆様、法同様、仰々
今朝其一足第參年後考擇、於ノ御免也資也主、物大ニ
非常ニ考ニ及キ者、是毎斗馬、様正直、御免先ルニ獨
之何ニ罪、ナニシテ惟粉廟御免之也トヨリ和ノトキ
十兵ニ解化施シテ、皆様也作業知、通フ何事、一物向高
大抵、生活ノ考ニテ其日其口事、ニテレバ方考據、解任
セラ考據者多キ財目方、金ノ三元國ノトキ十有様ノト
ミニ足矣、此度考據、一物向高者全御、蓮名テ元ノ通り、向
シ戴ク様、般シテ居、是方今御資中主ガナカナ開ヒテ
矣ニセレ

而立處考據、人金ナ、何知也叶、即刻般シテナカニ乞
上セヨガナ乞也、向高者多カナテ小弟ノ國ノイシサハナ、即刻